

第4章

各学年段階における キャリア教育

第4章

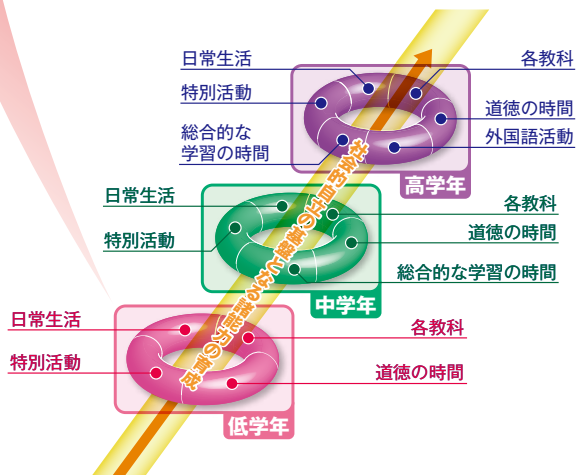
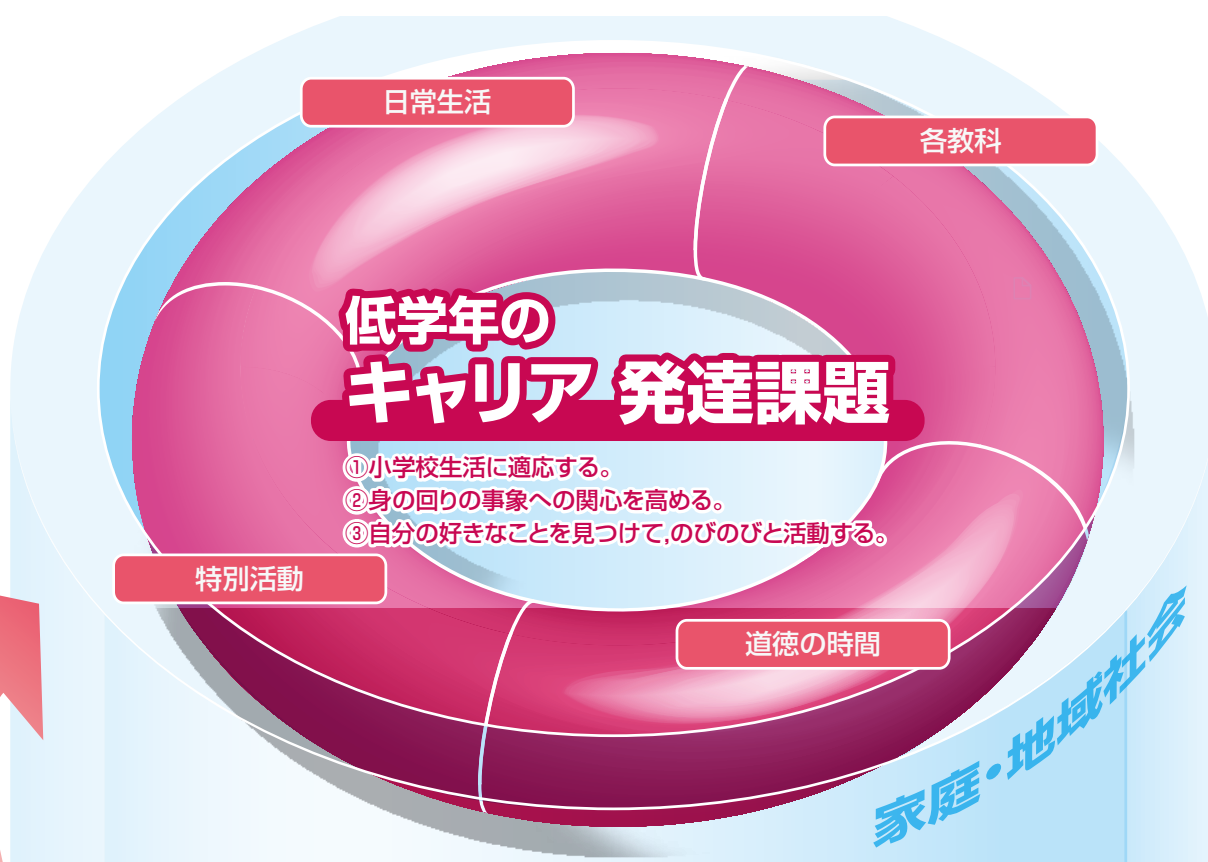
各学年段階におけるキャリア教育

低学年

好きなこといっぱい できることいっぱい 学校って楽しいな

低学年では、自分の好きなこと、得意なこと、できることを増やし、様々な活動への興味・関心を高めながら意欲と自信を持って活動できるようにすることが大切です。

低学年の発達課題と実践のポイント



(1) 小学校生活に適応するために

低学年の児童は、小学校生活への期待が大きい反面、初めて出会う学習活動や生活体験への不安も大きい。「小1プロブレム」など、学校生活への対応が困難な児童の増加を受け、幼小の連携を一層重視し、意図的・計画的に活動を工夫して集団に適応し、友達と仲良く助け合っていく態度の育成を図りたい。特に、返事やあいさつ、自分の気持ちを伝えること、時間やきまりを守ることなど基本的な生活習慣を身に付けることや、社会生活上のきまりを理解することなどは、この時期の最も大切な指導である。家庭との連携を密にしながら、日常の体験の中で繰り返し指導することが大切である。また、入学当初に、生活科を中心とした合科的・関連的な指導を意識した単元を組み、幼児教育との段差を低くしていくことも効果的である。(実践例1年《生活》「がっこうたんけん」)

【発達課題を踏まえたねらいの例】

- 返事やあいさつをする。
- 決められた時間や約束を守る。
- してよいことと悪いことがあることが分かる。
- ありがとうやごめんなさいが言える。
- 自分の気持ちや意見を伝える。
- 係や当番の仕事に取り組み、その大切さが分かる。
- 作業の準備や片づけをする。

(2) 身の回りの事象への関心を高めるために

家庭→教室→学校全体（上学年や教職員、校内の人々）→通学路→町（地域の人々）へと、学習の対象や場を広げていくことが大切である。様々なものやこと、人々とかかわりを広げながら、身近な人々の生活や働く人々に関心をもち、積極的にかかわっていこうとする態度をはぐくみたい。まず学級集団の中で、係活動に取り組んだり、家での仕事を分担したりすることを通し、自分が役割を果たすことの価値を知る。(実践例1・2年《特別活動・学級活動》「かかりのおしごと発表会をしよう」、2年《道徳》「がんばっているねわたしのしごと」)そして、身近な人々や地域の人々と進んで交流する中で、相手の気持ちを考えたり、お世話になった人々や自分の生活を支えている人々に感謝したり、自分の役割の大切さを自覚したりできるようになっていく。(実践例2年《道徳》「働く楽しさ」、2年《生活》「だいすきわたしたちのまち」)



幼稚園児（保育園児）との交流や地域の人々との触れ合いの場、縦割り班活動での異学年交流の場を豊にして、身近な人々とかかわることの楽しさを十分味あわせたい。

【発達課題を踏まえたねらいの例】

- 友達の気持ちを考える。
- 身近な人々の生活に関心をもち、積極的にかかわる。
- 身近で働く人の様子が分かり、興味・関心をもつ。
- 係活動や家での仕事などを通して、自分の役割の大切さが分かる。
- 自分の生活を支えている身の回りの人に感謝する。
- お世話になった人々に感謝する。

(3) 自分の好きなことを見つけて、のびのびと活動するために

何でもやってみたい時期、好奇心旺盛なこの時期に、様々な体験活動の中でできるようになったことを増やし、自信をもたせて活動する楽しさを味わわせたい。

自分の好きなことが言えたり、友達によさを見付けたりしていくことをはじめ、自分をかけがえのないものとして大切にしていこうとする気持ちをはぐくんでいく。そして、自分自身の成長に気付き、自信を深めるようにしていくことが大切である。(実践例1年《道徳》「たいせつなじぶん」)

【発達課題を踏まえたねらいの例】

- 自分の好きなことが言える。
- 自分の好きなもの、大切なものをもつ。
- 自分のよいところを見付け、自信をもつ。
- みんな仲良く学習したり遊んだりする。

